

# サウジアラビアの結婚式

平成17年3月5日

電気科2期卒業 松永

たぶん1979年の秋だったと思います。発電所に勤務するサウジ人の兄の結婚式に招待され、首都のリヤドから砂漠を越えて北方のマジュマという小さな町に行きました。出かけたのは私と同僚(機械屋さん)と商社員の家族、それとイギリス人の家族でした。

右は結婚式が行われる友人の実家です。

裸電球が満艦飾です。サウジの家はこのように塀が高いのです。女性は他人に顔を見せてはいけないので必然的にこのようになります。

家の外の空き地には絨毯が敷かれておりここが招待された男どもの宴席です (^\_^)。



座っている男どもが見えますね。。。。

一緒に来た商社員とイギリス人の奥さんと子供は家の中に入れてもらえました。入れてもらえない我々は敷いてある絨毯に座り、ガホア(サウジコーヒー)やチャイ(紅茶)を飲みながら興味津々。。。。集まってくるサウジのオジサン達は、このように平服にサンダル履きです。

薄暗くなって、ゾロゾロ集まってきたところで料理が運ばれてきました。洗面器を大きくしたようなホーロー引きのお皿に米と羊が乗っかっています。カプサ(KAPUSA)というサウジの伝統料理です。地べたに置かれています。。。。



右が私の同僚です。  
かなり重そうです・・

なにせ米の量は30人  
分以上あります。  
その上にドーンと羊の  
肉が鎮座しています。

このカブサは美味しく  
て大好物です。  
パエリアのような感じ  
です。

米はパサパサの長粒米  
です。凶作の時にタイ米  
を食べましたが気にな

らなかったですね。 チャーハンなどはこのインディカ米の方が美味しいのです。



このように味の付いた米の上に羊の肉が一  
匹丸ごとドカンと乗っかっています。

サウジのしきたりでは賓客がまず脳ミソと  
目玉を食べるのだそうです。

右からイギリス人、同僚、物産の樋口さん。  
立っているのはリヤド電力の機械屋(ノーマ  
ン)さんです。 先日彼と23年ぶりに会っ  
てきました。 カブサが食べたいと言ったら  
2日連続でご馳走してくれました。

樋口さんは脳ミソと目玉に挑戦しましたが  
私はダメでした・・・・・

一つのお皿を5人ほどで囲み、右手だけで  
肉をちぎり、お米は右手だけでにぎり寿司の  
ように固めて、口にほおばります。

当然お皿の廻りはこぼれたお米がポロポ

ロ・・・・・ 肉がうまくちぎれないと、サウジのオジサンが器用にちぎってくれます。

子羊が丸ごと一匹(当然骨付きです)乗っかっているのです。 羊の代わりにラクダが使われることもあ  
ります。



とても5人くらいで食べきれません。この残りが家の中で待っている女子供のところに届けられます。これがベドウィンのしきたりです。

家の中で女たちが歌ったり踊ったりしている様子がうかがわれましたが、我々はお呼びではありません・・・



サウジのオジサン達はカブサを食べて、チャイを飲むとさっさと引き上げてしまいました。ベトウインの世界では面子が非常に重要なのです。オジサン達は、「招待されたから来てやった。招待した家の面子を立ててやった」という論理です。

近所のオジサンがガホアとチャイを沸かしてくれていました。

赤いやかんにはチャイ(紅茶)が入っています。紅茶の葉と砂糖を入れて一緒に煮出します。

右手に持っているのはアラビア風のポットです。これにはガホア(アラビアコーヒー)が入っています。



ガホアは生のままのコーヒー豆をすりつぶしたもの(当然緑色しています)をこのポットで煮出して飲みます。色は日本茶の濃いような色です。苦いのですが、最初に飲んだ時から好物になりました。このアラビア風ポットのくちばしの部分は上半分無いんです。ここにある種の木の根をフィルター代わりに詰め込んで、豆の粉が出てこないようになっています。

宴会が終わり、チャイを飲んでいるところです。トッテのついたビール用のグラスを小さくしたようなグラスです。

サウジ人は甘いものが好きで、砂糖がごっそり入っています。

ガホアは日本のお猪口のようなもので飲みます。



日本人が珍しく子供達が寄ってきました。左が招待してくれたファハド・アティーキ。右がナーセル・ノーマン 共にリヤド電力の社員です。先日23年ぶりに会ってきました。右は早期退職して年金で悠々自適です。アティーキが持っているのは香水です。手づかみで食べますから、食後手を洗った後に手に香水をかけます。私が31オの時ですね。この二人との写真は後のページに。。。

サウジの女の子が見えますね。彫りが深くてかわいいですよ。サウジは今も嫁さんを4人もらえます。でも最近の高学歴のサウジは嫁さん一人で良いと言っています。

昔は町の中でダットサンやトヨタのピックアップ(トラック)の荷台に嫁さん4人と子供をごっそり乗せていた車をよく見ました。

さすがに今回はもっとリッチになったせいか、そのような車は見かけなかったです。

イスラムで嫁さん4人 OK と言ったのには、男は戦争で死んでしまうと未亡人が増えるからその救済措置だったようですが、いまは新しい・・・のを4人。うらやましい限りです。

最後まで新郎新婦とは会えず・・・ 当たり前か?? これがサウジの結婚式でした。



サウジアラビアに初めて行ったのは1974年4月です。その後1982年まで毎年合計20数回行きました。77年から78年末までは試運転のため連続して滞在。79年から82年までは冬の短い期間を除いて発電所のお守りのためにリヤドにいました。右の写真はまだ試運転真っ最中の頃に土漠でソフトボールをしているところです。ごらんのように草木1本生えていません。



これはサウジの連中と土漠にピクニックに行った時です。このときは生きた羊を連れて行きサウジの連中がそれを殺してバーベキューにしました。ここは他のサウジの連中もよく来る場所のようで、写真には写っていませんが背の低い灌木の上に羊の皮が何枚か乗っかっておりました。(奥が私です、左はノーマン。作業服を着ているので仕事が終わりに直行したようです)



これはリヤドから数十キロ行ったところにある不思議な穴です。直径100メートルくらいの穴で中に水がたまっています。ここで落ちた車が300キロ離れた東海岸の井戸で見つかった、とかいう話を聞きました。リヤド近郊の地下には膨大な地下水が貯まっており、雨の降らないリヤドではこの地下水のおかげで生活が成り立っていたわけです。いまは東海岸の海水淡水化装置で蒸留された水が延々数百キロパイプラインで送られてきます。



(左 ノーマン 中 ラッファ 右 同僚 79年1月)

まだ地下水を汲み上げていのですが、地下水のくみ上げによる地盤沈下が発生し発電所のコンクリートにひび割れが発生したりして影響が出ているようです。

ちなみにサウジではガソリンが27円くらい。ミネラルウォーターより安いのです。

## 平成17年2月

23年ぶりに訪れたサウジで友人達が歓待してくれました。

### レントハウスのテント内で

リヤドの郊外にレントハウスがありました。

左にはプールがあり奥にはちゃんと部屋もあります。が、わざとテントが置いてあるのです。昔はこんなものありませんでしたが、昔を懐かしむサウジがたくさん借りているようです。

電力会社のサウジ達が日曜日(平日です)に皆で集まってワイワイやるのに週1日レンタルしているそうです。土曜日でしたが特別に私のために借りて連れて行ってくれました。



これはテントの中です。

左は ノーマンさん。 彼が色々と世話を焼いてくれました。サウジでの写真にはいつも彼がいます。早期退職して手厚い年金で悠々自適です。カブサが食べたいと言ったら取り寄せてくれました。今は出前も携帯から OK・・・便利になりました。カブサ と 7UP で・・・。ビールなんてものは存在しません。



これは日曜日です。会合の日ですからメンバーが三々五々手にポットとおやつを持って集まります。ポットにはチャイとガホアが入っています。それぞれ家庭の味で違います。外で履き物を脱いで上がってきますから生活様式は昔の日本と同じです。おやつは甘いお菓子とナツメヤシの実など・・・真冬ですから夜寒くなって後ろの暖炉で薪を燃やして暖をとりました。ベトウインの移動テントでは暖炉は無かったですでしょう。



昔日本に研修に来たサウジが炬燵を見て素晴らしいと言ったそうです。

日本の電気メーカーは炬燵を輸出していないのかなあ??イランでは米のお焦げが最高のご馳走らしく、イラン向けの炊飯器はわざとお焦げが出来るようになっているらしいです。

大勢集まってきて・・・  
後ろにテレビが見えます。今は衛星  
放送で世界中の番組が見られます。

アラブ首長国連邦のテレビを見ま  
したが女性達が踊っていました。  
直ぐ隣の国です。ベールはかぶって  
無くとても美人が多かったです。  
テレビに出るくらいだから当然で  
すね。サウジでは女性は運転出来ま  
せん。こんなにも違います。



この日もやはりカプサを注文して  
くれました。

サウジが性に合うのかうまい!!  
連日15時で仕事を終えテントハ  
ウスに直行・・・

23時頃まで食べたり飲んだり(ア  
ルコールなし)。



そのあと、何が食べたいか?という  
ので「シャウルマ」と言うときっそ  
く連れて行ってくれました。

羊の肉と香辛料を交互に挟みそれ  
を縦長の棒に刺してガスバーナー  
の前で回転させてまんべんなく焼  
くんです。それを包丁で切り落とし  
ホプスというサウジ式パン(インド  
辺りではナンといいます)にくるん  
で食べます。昔はこんな立派な店は  
無かったです。超満員でごった返し



ていました。最近秋葉あたりで見かけたことがあります。たぶんトルコ人がイラン人あたりがやっ  
ているのか? 私はこのシャウルマとカプサがあれば日本食は要りません。

## サウジレストランで

昔はサウジレストランなどありませんでした。生活がリッチになりすぎて、昔の生活を思い出させるものが復活しています。

真ん中がアティーキ。  
左はラッフア。

昔は我々の宿舎に来て、焼き肉食べて仲良く遊んでいました。

サウジの大富豪に見えますが、二人とも47才です。今も電力会社に勤務しています。アメリカ留学組ですから偉くなっています。



## サウジのパン屋

リヤドのあとでジザンという紅海側のイエメン国境に近い町に行きました。ホテルで飯を食べる気がないので町へ出て「ホブス」(サウジのパン)を買ってきました。

ふくらし粉は入っていないのでふくれません。練った小麦粉をこのような形にしてそれをカマドの中の壁に貼り付けてやります。これは焼き上がってカマドから出すところです。このオジサンはアフガニスタンから出稼ぎに来ているそうです。

誇り高きサウジはこんな仕事はしませんので……。

お土産に3枚持ち帰りました。もっと買ってくれば良かったと……好評でした。

というわけで23年ぶりのサウジでした。

